

第一節 調和の取れた生き方

運命の力を信じて教えに生きる

信者とは、信ずる者です。特定の団体の会員を指すものではありません。神から与えられた自分の運命の力を信じて生きる人です。この運命というものの捉え方も、一般社会で思われている感覚とは異なります。神から一つ一つ真理を学び、的確につかむことが必要です。

神は、心の道という表現を使われます。心の道とは、人としてあるべき心の道、神の教えです。神、仏、人の道です。神に向ける心が神の道、親、先祖、縁ある人々に向ける心が仏の道、周りの人に向ける心がいけばよいのが人の道です。それをいろいろな角度から神示をもってお教えくださっています。心の道とは、神の教えであり、神示であり、真理です。

人は、神の教えを身に付けないと、さまざまなところで迷い、苦しむことになります。関わらなくてもよいことにいちいち関わり、自ら悩みを生み出します。教えを学べば、一つ一つの物事にどう関わればよいのかが分かってきます。

基本に戻って真理に根差した生活を

物事は、点で捉えてはいけません。毎日、多くの報道やさまざまな人と触れて得られる知識は、どれも点です。そのときに、真理を学んでいると、点ではなく、つながった流れが見えてきます。

例えば、何が問題になっているのか、その事実そのものではなく、なぜその結果になったのか、現象が起きるまでの経緯など、原因が見えてきます。世間で大騒ぎするのは、自分の利を得るための動きと見えてくることもあるでしょう。家庭に起きる問題も、なぜこのような現象が起きたのか、何が欠けてこうなったのかが分かります。

今、世の中は、基本に戻ろうとしています。基本を見詰め直そうとしています。家庭なら、父親らしく、母親らしく、子供らしく生きることです。教育とはどういうものか、医療とはどのようなものかと、基本に戻って考える時です。大切なのは、真理に根差した生活です。教えに生きると、真理に根差した考え方ができ、人生は変わっていきます。

神 示

命ある今を「生きる」—— 楽しき時時と気付いてほしい

なれど 今衆人を生きる人の心に見えるものは 夢なき将来の姿

精神世界の真実を知らず 真理なき知識を絶対と頼る人の心衆人に